

# 文章の記述力の基礎を育成する国語科学習指導法の研究

～短作文づくりにおける交流活動を通して～

行橋・京都地区教育研究所

京都郡苅田町立苅田中学校

教諭 野村 信之

## 1. 研究の目的

短作文づくりにおいて、気づきシートを活用した交流活動を仕組むことが、文章の記述力の基礎を育成する有効な手段になりうることを究明する。

## 2. 研究の仮説

「短作文」を書き上げる活動において、目的的な場を設定し、書いた文章を読み合い、気づきシートを活用した交流活動を仕組めば、自分の意見をわかりやすく効果的に伝える文章の記述力の基礎を育成することができるであろう。

### 補足説明

短作文活動に即した学習の手引きやワークシートの活用  
学習者に、だれに対して（相手）、何のために（目的）、何を（内容）、どのように書く（方法）という条件が明確な場。  
交流活動のときに使うシートで、読んだ作文のよい点と、ここをこうすればもっとよくなるというアドバイスを記入した相互批評用シート。

気づきシートを活用した共同評価（批評）活動。  
検証の4つの視点を克服した状態。

## 3. 主題・仮説の意味

### （1）「記述力」と「記述力の基礎」とは

本研究に関わる「自分の意見をわかりやすく、効果的に伝える文章」を書くために必要な「記述力」とは、具体的にはどのような力か。「国語教育研究大辞典」（1988 国語教育研究所編 明治図書）では「記述力」に関して次のような力を挙げていた。

- （1）順序だてて書く力
- （2）段落を整えて書く力
- （3）事実と感想・意見などを区別して書く力
- （4）文脈にふさわしい語句を使って書く力
- （5）説明と描写とを使い分けて書く力
- （6）正しい表記に従って書く力」など

また、「わかりやすく効果的な文章」を書くために必要な記述力について研究家諸氏の文献を調査した結果、共通に挙げていたのが「用語の使い方（語彙力）」「表記力」「文（文章構成力）・段落（段落構成力）」であった。そして、実際に作文を書かせるときにはすべての力を見るのではなく、題材・目的に合わせて、つけるべき（見るべき）力を絞ることが重要で、なかでも市毛勝雄氏は長年の経験（評価という視点）から、作文を書かせたとき、「表記・語・語句・文」等は適宜扱うべき項目であり、常時行うのは、段落の「構成、目的、主題、内容」で、「段落構成力」を中心に作文を見ることの重要性を述べていた。（平井昌夫氏も「文章評価法」（至文堂）の中で、「段落を整える力」を中心に、1つまたは2つに絞るべきという見解を示している。）実際に生徒に作文を書かせ、分析を行った奈良県国語教育研究会も「段落は論理的表現そのもの」とし、簡潔で、わかりやすく、論理的な作文を書かせる上で重要なスキルとして段落構成力の技術を挙げており、学習指導要領の「効果的な文章の鍵」「論理の展開」に通じる考え方を示していた。加えて、心理学の立場から「文章のわかりやすさ」について、以下のような指摘があった。

文章レベル	要因
文章全体のレベル	トピックに関する情報の少なさ
文/段落レベル	文・段落のつながりの悪さ
単語レベル	ことばのわかりにくさ

文章のわかりにくさの主な要因（深谷優子2000「多様な情報を含むテキストの談話構造と読解の検討」改変、「文章理解の心理学」2001 北大路書房）

これは、学習指導要領や研究家諸氏の見解と一致するものである。これらのことを踏まえ、本研究では、「記述力」の中から、次のア～エの技術（「文・段落構成に関わる記述力の基礎的技術」）を「記述力の基礎」と定義づけ研究を進めることとした。

- ア 一 段落にひとつの事項で書くことができる（一段落一事項）
- イ 明確なキーワード・トピックセンテンスを位置付けた段落を作ることができる
- ウ 段落内の文を緊密につなぐことができる
- エ 段落を論理的に配列することができる（段落と段落とのつながり）

#### （２）気づきシートを使った交流活動とは

前出森岡氏は、「生徒や学生の提出する作文は、ほとんど例外なく第１次草稿に近く推敲と書き直しの過程を経てないばかりか、推敲の方法すら知らない生徒が多いので、推敲の方法をきちんと指導しなければ文章力を伸ばせない」とし推敲すべき十項目を挙げ、作文記述後の指導者の検討の重要性とともに、「評価項目を生徒に十分飲み込ませ、互いの作文を交換し、評価しあう機会をつくることも効果があがる。」とし、平井昌夫氏、花田修一氏など、多くの研究家も共同評価（批正）活動の有効性を説いている。第２次作文記述前に気づきシートによる交流活動を取り入れることで次に挙げるような利点が考えられる。

- ア 推敲の仕方（観点）を知ること、それを自分の文章活動に生かすことができる。
- イ 文章を読むときに推敲の観点を意識して読むことができる。
- ウ 他の人の優れた文章をよむことで、それを自分の文章活動にいかすことができる。
- エ 他人の文章の弱点を指摘することで、その指摘を意識して、自分の文章を書くことができる。

#### ４．分析の視点について

##### 〈 気づきシートを分析する視点 〉

##### （１）気づきシートの指摘が検証の４つの視点に沿ったものであるか。

【設定理由】気づきシートの指摘が、検証の４つの視点に沿うことで、第２次作文がより段落構成を意識したものになり、自分の意見をわかりやすく効果的に伝える作文に変わると考えられるからである。

【検証方法】気づきシートに書かれた指摘数、検証の４つの視点での指摘数の変容を分析する。

##### （２）気づきシートに書かれた４つの視点に沿った指摘に理由付けがなされているか。

【設定理由】検証の４つの視点の指摘に「なぜ変えるべきなのか」という理由付けができるということは、自分が文章を作るときにそのことを生かして文章を作ることができるし、わかりやすく効果的な文章作りにつながると考えられるからである。

【検証方法】検証の４つの視点での指摘内容を分析する。\*「～こういうふうに変えよう～ふうな理由でよくなる。」等、なぜ変えるべきなのかの理由付けがある指摘数の変容を分析する。

##### 〈 交流活動を分析する視点 〉

##### （１）第１次作文と第２次作文の比較において、記述力の基礎は変容しているか。

【設定理由】気づきシートを活用した交流活動が、第１次作文から第２次作文への改善に深く関わると考えられるからである。

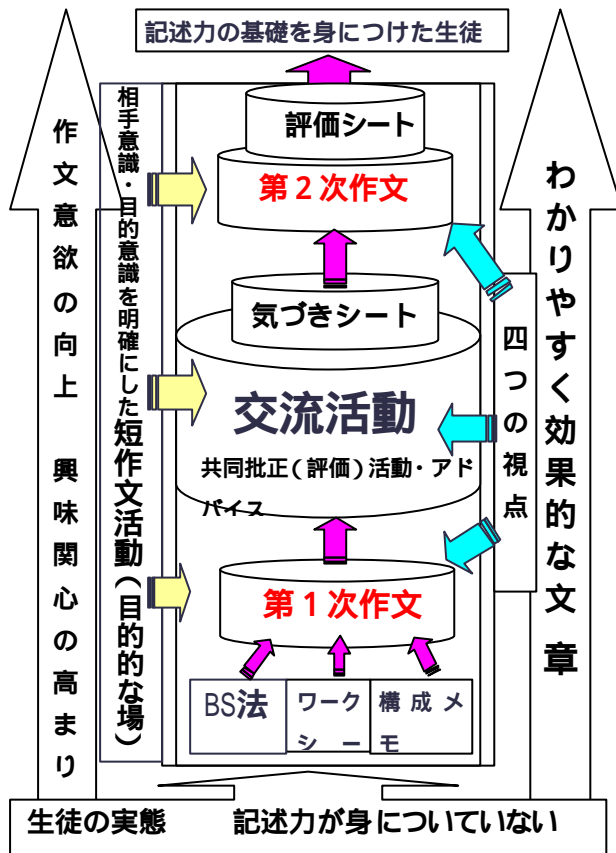
【検証方法】交流活動が、検証の４つの視点の習得にどの程度関わるのか、第１次作文と交流活動後に書かせた第２次作文における検証の４つの視点における作文の変容数および検証学級の伸びを分析する。

##### （２）交流活動が、検証の４つの視点の有用性を認識させたかどうか。

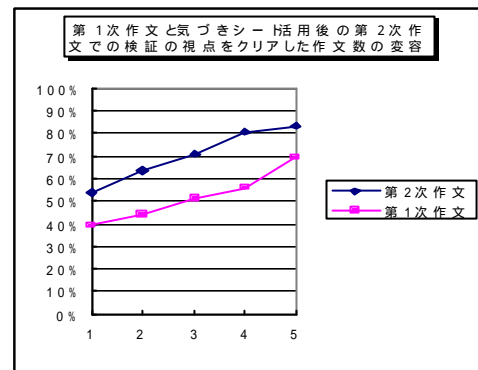
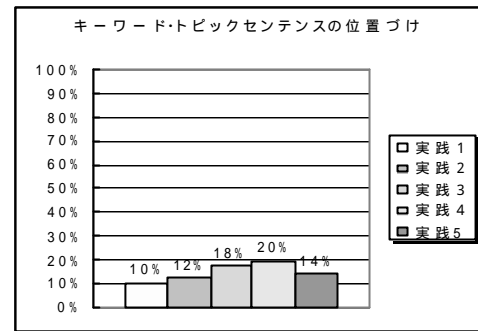
【設定理由】検証の４つの視点に沿った他者の長所を見つけることや検証の４つの視点を意識した指摘ができることは自分が作文を書く上で役立つと考えられるからである。

【検証方法】第２次作文作成後の調査結果と気づきシートに書かれた感想を分析する。

## 5. 研究構想図



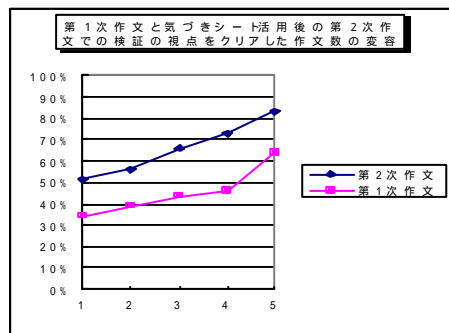
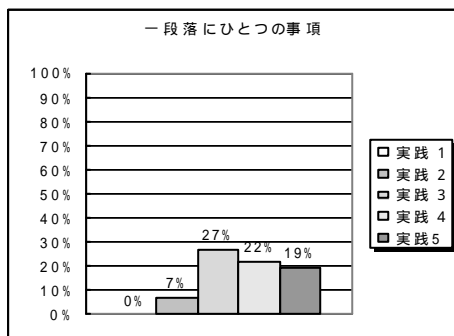
イ【明確なキーワード・トピックセンテンスを位置づけた段落を作ることができる】



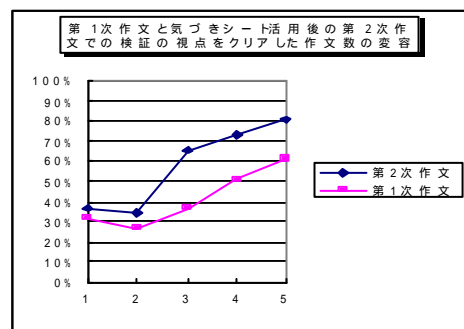
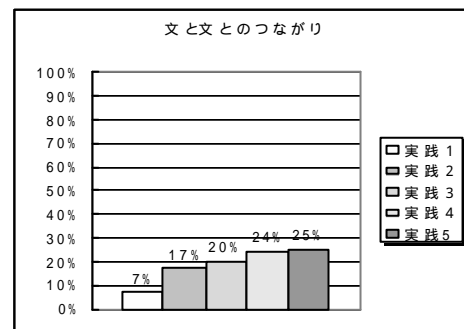
## 6. 研究の成果と課題

(1) 第1次作文・第2次作文における検証学級の文章の記述力の基礎の変容

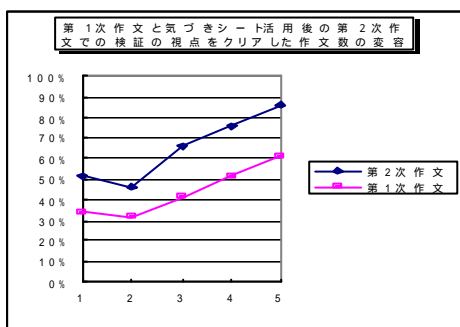
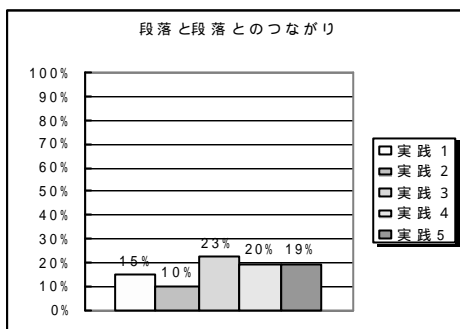
ア【一段落にひとつの事項で書くことができる】



ウ【段落内の文を緊密につなぐことができる】



エ【段落を論理的に配列することができる】



(2) 気づきシートを活用した交流活動における検証学級の文章の記述力の基礎の変容

全		実践1	実践2	実践3	実践4	実践5
	総指摘数	389	422	346	325	223
指摘数の平均	9.5	10.3	8.4	7.9	6.2	
体	検証の4つの視点	24	42	92	90	63
	検証の4つの視点の占める割合	6%	10%	27%	28%	28%
	理由根拠がはっきりしている指摘数	4	9	38	66	55
	/	17%	21%	41%	73%	87%

指摘に関する根拠理由を書いていた指摘は授業実践5では全体の87%となりこれは、授業実践1での数値と比較しても5倍近い伸びを示した。これは、生徒の検証の4つの視点への意識の高まりを示すものである。

課題

(1) 短作文を書き上げる活動において目的的な場を設定するための手だてについて

作文分析を通して、実際の作文に使われている言葉(単語・フレーズ)の多くが、ブレン・スト・ミングに出てくる言葉であり、ブレン・スト・ミングが、「記述」という活動における「発想」だけではなく、「意見・選材」にも深く関わっていることが再確認されたので、ブレン・スト・ミングを行う際、他班との交流も含めた活用の工夫を図ることが大切である。また、題材にあわせて、一段落にひとつの事項で書ける技術や、主題文・キーワードの位置づけが明確にできる技術が身につくようなワークシートの改良とともに、文章の論理的な展開を支える、文と文・段落と段落とのつながりを意識できるような構成メモの改良を常に意識しておかなければならない。そして実際に授業を行う場合、リアリティのある目的的な場の設定が重要なので、日ごろから相手意識・目的意識を高める作文教材の発掘を心掛けるべきである。

(2) 気づきシートを活用した交流活動による記述力の基礎の育成を図る手立てについて

生徒にどんな力をつけたいのかを教師自身がしっかりと決めた上で、作文を批評(評価)する視点を生徒に示すことが大切である。本研究において記述力の基礎の育成のために活用した気づきシートだが、交流活動後のシートの指摘を第2次作文にすべて活かしてはならず、気づきシートの指摘や指摘理由を十分読み込ませるなどのアフターケアをきちんとしなければならない。また、書かせ放しの授業では、教師のつけたい力(技術)を生徒につけることはできないので、時間はかかるが、添削指導を含めた評価活動を授業にきちんと位置づけることも大切である。